

## 住吉区将来ビジョン（改訂案）に対する外部評価（区政会議委員）意見への対応方針

番号 (担当)	外部評価（区政会議委員）意見	対 応 方 針
1 (保健福祉)	<p><b>〇区の人口動態から予測される住吉区の将来課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジョン第1章の「住吉区の推計将来人口と人口減少率」のグラフを見てみますと、2010年と比べて30年後の2040年には全体の人口が2割近く（19.1%）も減少することが予測されています。</li> <li>・問題はその内訳で、2010年と2040年を比べて、0～14歳が43.2%も減少（19,189人⇒10,898人）、15～64歳が32.6%減少（98,751人⇒66,563人）する一方で、65歳以上の高齢者人口が28.5%も増加（37,632人⇒48,359人）していることです。2040年の高齢化率が38.4%と予測されており、高齢者のみの世帯の割合は、区民の3世帯に1世帯にまで上昇することが考えられます。</li> <li>・つまり、これまでのような同居家族が高齢者を支える地域モデルでは到底考えられない実態がすぐそこまで来ており、高齢者自身も含めて住民が互いを支え見守る地域にしていくことが、安心して暮らせる住吉区にとって重要な課題になっているといえます。</li> <li>・将来ビジョンでは、そんな未来を見据えて区役所などの行政機関はもちろんのこと、福祉の専門機関や事業所、商店・企業等住吉区内で活動するあらゆる団体が協力して地域住民の活動を支え、連携していく必要性を明確に訴えることが重要ではないでしょうか。</li> <li>・「住吉区地域福祉システムの構築」は、それゆえの最優先課題として区の将来ビジョンの中で位置づけられる必要があると思います。</li> </ul> <p><b>〇住吉区地域福祉システムの構築のための課題（P11～13）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジョン第4章の「高齢者、障がい者、子ども等が心地よく暮らせるまち」の主な施策として「住吉区地域福祉システムの構築」が掲げられ、これまで課題別となっていた「地域見守り支援システム」や「子ども・若者育成支援事業」など5つの課題が統合されて提案された点は大切なことだと思います。</li> <li>・さまざまな課題を制度のタテ割りではなく、地域で様々な機関や関係者が住民と連携して取り組むという「地域福祉システム」は大阪市内でも突出した先進的な取り組みになると思います。</li> </ul> <p>ただ、そのシステム構築のために配慮すべき点がいくつかあるように思いますので以下に示します。</p> <p>①第1に、地域の支援に関わる人の輪を広げるための取り組みです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、半数の地活協で「地域見守り事業」が取り組まれており、援護を必要とする住民への日常的見守り活動が始まろうとしています。地域の悩みどころは実際に支援に関わる役員や活動家が少ないことです。</li> <li>・地域包括支援センターやCSWは個別の支援のケースに地域住民と一緒に取り組むことで、地域の支援者の拡大に貢献しなければなりませんし、区役所は地域見守り活動についての学習会や啓発事業等の様々な支援策を打って、様々な住民の活動を地域につながるよう支援していく必要があるように思います。</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおりと考えている。</li> <li>・地域見守り事業を進めていくには、普段からの声かけや見守りの仕組みをつくっていくことが重要。</li> <li>・また、地域の担い手を発掘し、育ていくなど地域力を高めていくことが必要。</li> <li>・区役所として、区社会福祉協議会、介護保険や障がい者施設、地域の皆さんと協働して進めていく。</li> </ul>

住吉区将来ビジョン（改訂案）に対する外部評価（区政会議委員）意見への対応方針

番号 (担当)	外部評価（区政会議委員）意見	対応方針
2 (保健福祉)	<p>②第2に、地域での支援に制度のタテ割りを越えた連携をしていくことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での課題は高齢者支援事業、障がい者支援事業、児童支援事業等の制度に合わせて存在しているわけではありません。様々な課題が複合的に存在しており、現在の福祉課題は、地域で総合的、包括的に当事者を支援することとなっています。</li> <li>・しかし、行政はともすれば予算の枠に縛られて制度を越えた取り組みに積極的ではありません。「地域包括支援センターは高齢事業だから」と、包括に配置するCSWの机さえ包括事務所内に設置することを拒んでいます。</li> <li>・新年度で区に設置される「見守り相談室」は身近な地域での福祉に関わる様々な相談に対応すべく各包括支援センターやCSWと連携して取り組むことが求められていますが、行政がこの連携を積極的に支援する姿勢を示す必要があると思います。</li> <li>・地域に専門職がどんどん出ていって、地域住民と連携した支援を展開できるように行政が後押しすることが大切だと思います。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉や医療の予算が府市、部局で縦割りで、区が関わる部分が事業単位で重なる部分、重ならない部分があり非常に複雑。</li> <li>・今後、地域包括ケアシステムの構築などが言われている中で、制度を超えた取組が必要。</li> <li>・住吉区で取り組む地域福祉システムの再構築は、そうした予算や制度の枠にしばられた縦割り行政を乗り越える取組。</li> <li>・見守り相談室の設置は、まさにそうした取組の中心となるべき位置づけになる。</li> </ul>
3 (企画)	<p>③第3に、「最終目標」を単純な数字にするのではなく、地域が変わっていく過程に置くべきだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援の活動は長期に亘って取り組まれるもので、エンドレスです。成果は一つひとつの支援の実践を通じて、課題を抱えた住民が地域から孤立することなく、地域との新しい関係の中で暮らしていけるようになることです。</li> <li>・この支援に取り組んだ地域住民も、〇〇さんへの支援から、やがては自分にも関わる問題としての認識を深め、地域で支える経験による共同体意識が芽生える中で、地域の雰囲気、支え合い安心して暮らせるまちへと変わっていくところに地域福祉システムの最終目標を置くべきだと思います。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の趣旨はよく理解できるが、大阪市全体としては、今まで反省を踏まえ、主だった施策については数値目標を設定しきっちり検証することとしている。</li> <li>・今回のご指摘に関しては、数値にこだわるというよりも、区民の大部分が安心して暮らせると感じることができる雰囲気をつくりたい、というもの。</li> </ul>
4 (教育文化)	<p><b>〇3 住吉区にふさわしい教育の充実（P14）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民の意見が学校園の運営に反映するためのツールとして、区民との対話や区民意識調査等を活用するとしていますが、論議内容によっては、教育行政連絡会にPTA代表や第三者の参加も必要ではないでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育行政連絡会は、基本的に行政内部の会議。</li> <li>・教育に関して区民の代表者などのご意見を伺うことについては、区政会議、こども教育専門会議がある。また、区民意識調査も活用している。</li> </ul>

住吉区将来ビジョン（改訂案）に対する外部評価（区政会議委員）意見への対応方針

番号 (担当)	外部評価（区政会議委員）意見	対応方針
5 (教育文化)	<p><b>〇5 活力とにぎわいに満ちた住吉区（P16）</b></p> <p>① 活力とにぎわいに満ちた住吉          ・私は、住吉大社前の産院で生まれ、住吉大社で名前をいただき学校も住吉で学び住吉一色の人間ですが、確かに子供の頃より見ますと、住吉大社をはじめ住吉各名所に来訪される人々は多くなっているという印象は否めません。しかしながら滞在時間が大幅に短縮されている感がしてなりません。それは何故かと私なりに分析しましたところ、ゆっくりとした休憩場所、くつろげる場所がないことです。          （歴史案内人の会で、ご案内している参加者のご意見）          ・交通アクセスは、素晴らしく良い環境にあるのですが、南海高野線ははじめ駅前の閉塞化（帝塚山駅・住吉東駅周辺コンビニすらなし）、これでは人々の通過道としてのにぎわい感がありますが本来の賑わい満ちた住吉と云えないのではないのでしょうか。</p> <p>② 本来の「住吉名物」がない          ・住吉の街をご案内している中で、一番よくある質問が、「住吉土産」「住吉名物」「住吉で食事するところ」が多く聞かれ、その都度返答に困っているところですよ。          ・子どもの頃、終戦直後の何も無い時でしたが、住吉名物「ホッカホッカの焼き芋」「ふかし芋」「イモ餡」「イモ煎餅」など地元でとれたイモ類を材料にしたもの、その他としてカリカリのゴロゴロ煎餅、生姜糖、草餅がありました。駅周辺には「住吉名物かやくうどん」「関東煮」「甘酒」「ぜんざい」看板や垂れ幕があり、どの飲食店も常に満員で賑わっており、「住吉踊り」「吉凶」「竹細工」「住吉の土人形」などの店があり人気を呼んでいました。それに、地元の長老に聞きましたところ、「刃物屋」「木工製品」なども元気だったそうです。          ・このことは、現在の商店の皆さんが、振興に従事しておられる方方で復元して行けないものかと思えます。</p> <p>③ 小中学生参画の「住吉興し」          ・報告にもありましたように、まちのにぎわいは、区域全体にわたって賑わい創出に至っていないとありましたように、難しいものですが、前にも述べさせていただきましたように、小中学生を参画させることと思えます。区役所さんも市大生などとコラボされ、手掛けられています、通常の学習の中で体験させてゆくことが、早道ではないかと思えます。我々小学生の時は、住吉大社をはじめ各名所を見学させてもらい、由緒や景観歴史を学び、写生大会もあり、区長・校長・神職・寺院より表彰されて勇気づけられた記憶がありました。それを復活させて、より地域密着を図るのも「住吉興し」になるのではないのでしょうか。</p> <p>④ 名所・アクセス標識の設置          ・名所の説明標識を統一化し、わかりやすいものに出来ないものか、また、その場所への案内標識が今一つ不足している感があり、よく尋ねられます。同時にアクセスへの表示がほとんど見受けられません。資金のいることですが、これも学童の工作などで対応すれば面白いものが出来るような気がします。</p>	<p>①②④          ・南海高野線の住吉東駅と帝塚山駅に2月18・19日に観光案内板の設置工事を行う予定。また、まちあるきマップも3月中旬に完成予定であり、地図のデザイン等も統一するなど、南海電鉄とも連携し、まちあるき等を通じて住吉区の魅力を区内外に発信していく。          ・観光資源の紹介板については、統一的で分かりやすいものにするため、整備を検討していく。</p> <p>③          ・現在も各学校ごとに近所の名所等の見学や写生を実施。          ・今年度、帝塚山学院高等学校の学生の協力で紙芝居を作成している。住吉大社やあびこ観音等名所をすみちゃんが紹介していくストーリーで、完成すれば各幼稚園へ配布するとともに小学校や図書館でも貸出しを実施し住吉の魅力を発信していく。</p>

## 住吉区将来ビジョン（改訂案）に対する外部評価（区政会議委員）意見への対応方針

番号 (担当)	外部評価（区政会議委員）意見	対 応 方 針
6 (保健福祉)	<p>○高齢者・障がい者・子ども等が心地よく暮らせるまち（P11～13）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標 安心して地域で暮らせると感じる高齢者の割合80%以上とありますが、現状値は何%ですか？どのような方法で計測しましたか？</li> <li>・「見守り相談室」のCSWは目標値80%達成に対し、具体的に何をするのか？</li> <li>・地域見守りネットワーク、（仮称）認知症高齢者見守りネットワーク、高齢者障がい者虐待防止見守りネットワーク、医療・介護ネットワーク、地域支えあいネットワーク、要援護者の見守りネットワーク等やたらとネットワーク等多く作りすぎではないですか？</li> <li>・もっと地道に現状分析を行い、本当の問題点を見つけ出し改善していく必要があると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住んでいる地域で高齢者や障がい者が安心して暮らせる」と感じる区民の割合：39.0%（平成25年12月実施の区民モニターアンケート調査より）※平成26年度の数値については、現在、区民意識調査で測定中。</li> <li>・数値設定にこだわるというよりも、区民の大部分が安心して暮らせると感じることをできる雰囲気をつくりたい、というもの。</li> <li>・活動の目的により、ネットワークの成り立ちが変わる。それぞれのネットワークは必要と考える。</li> <li>・整理を図れるものは整理していく。</li> </ul>